

## 指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名： 福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園
- 2 指定管理者名： 社会福祉法人 福岡コロニー
- 3 指定期間： 平成29年4月1日～令和4年3月31日
- 4 施設設置目的： 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第八十三条第二項の規定に基づき、障害者の自立を支援し、就労の機会の提供その他必要な支援を行うため、福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園を設置する。
- 5 管理運営についての点検結果（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
  - (1)点検方法： 事業報告書、ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
  - (2)点検結果： 別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
<p>①公共性（公益性）の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労移行支援事業の利用者を中心に、多くの障がい者が一般就労に移行できるよう必要な訓練及び支援を実施していく。</li> <li>・就労継続支援B型事業の利用者を中心に、平均工賃の向上に取り組んでいく。</li> <li>・生活介護事業の利用者を中心に、重度の障がい者の活動（表現）の場を充実させていく。</li> <li>・各施設種別協議会に加入し連携・情報収集を図っていく。</li> <li>・地域の行政区と連携を図っていく。</li> <li>・苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員を選任し、苦情受付体制を整え、苦情申立人に対して誠意を持って対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者総合支援法に基づく施設入所支援、生活介護、就労継続支援、就労移行支援に取り組んだ。</li> <li>・就労移行支援事業では、重度の障がい者の就労支援のため、特性（知的・難病）に考慮した個別的なプログラム（挨拶・通所・報連相の仕方等）を行った結果、職業準備性が高まり安定して通所することができた。一般企業で活躍している利用者には、関係機関と（障害者就業・生活支援センター）と協力して企業先への訪問と施設での面談を行い、安心して仕事が継続できるように支援を行った。（実績：就職0件、定着支援10件、施設外作業57件）</li> <li>・就労継続支援B型事業では、地域の企業等に積極的に働きかけ、除草作業や簡易作業の受注拡大に努めた。また、福岡県セルフセンターや市内の関係団体と協力してバザー等の出店を行った。除草作業では、新たに軽トラック自動車を導入し作業効率を高めた。新規作業として、アニメグッズの製作作業を導入し安定した作業量の確保に繋がっている。</li> <li>・障がい特性に配慮した作業導入（立位作業、単純工程、色彩のある仕事等）を行い、重度の障がい者でも作業できる環境を整えた。</li> <li>・生活介護事業では、重度の障がい者の活動プログラムを見直し、地域での手話ダンスの発表の機会や対応できるレパートリー曲を増やした。創作活動においては作品の商品化やコンクール等に応募することで、達成感やモチベーションが維持できるように取組んだ。</li> <li>・障がいの重度化や高齢化に対応するため、食事や洗濯、入浴等の生活面の支援を充実させた。要望の多かった設備面における食堂空調設備及び緊急コールシステム設備の改修が完了し、安心して生活ができる環境となった。</li> <li>・市内の社会福祉法人連絡会の役員施設として、地域の困りごとに対応するためのネットワーク作りや研修会の企画・運営等を行った。</li> <li>・福岡県社会就労センター協議会や福岡県身体障害者施設協議会の役員施設を引き受け、三越大規模販売会等の県事業や研修会の企画・運営等に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・危機管理に関して、福岡県社会福祉法人経営者協議会の災害検討委員会の委員として、福岡県の災害時における社会福祉法人の取組みについて議論を重ね、事業継続計画（BCP）の作成に関する研修会の企画運営に協力した。</li> <li>・安全対策における地域連携として、施設職員の普通救命講習会に民生委員さんに参加を呼びかけ合同学習会の機会を作った。</li> <li>・苦情対応規程や苦情受付フローチャートを整備し、第三者委員として弁護士や大学の先生を配置。年に2回、第三者委員と各事業所の担当者で、苦情の受付状況の検証を行っている。</li> </ul>
<p>②施設利用及びサービス向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の安全衛生委員会を通じて、リスク管理を行い安全で快適なサービスを実施していく。</li> <li>・ホームページや機関誌による情報発信を図っていく。</li> <li>・地域の障がい者支援団体の一つとして、障がい者団体や支援団体等の活動に協力・協働していく。</li> <li>・地域と交流するイベントを企画し障がい福祉への理解を高めていく。</li> <li>・社会福祉関連資格等の実習生を積極的に受け入れ、社会資源の一つとしての役割を果たしていく。</li> <li>・利用者満足度調査を実施し、当事者目線でのサービス満足度を確認し、結果については所内に掲示し利用者へ知らせしていく。</li> <li>・利用者自治会や家族との懇談会を実施し、要望等の確認を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用定員：施設入所 40人、生活介護 16人、就労移行 6人、就労継続支援B型 38人。</li> <li>・平均利用者数：施設入所31.5人（前年比+3.3%）、生活介護12.2人（前年比+13%）、就労移行1.0人（前年比-50%）、就労継続支援B型30.9人（前年比-4%）</li> <li>・施設稼働率（平均利用率/定員）：施設入所78.7%（前年比+3%）、生活介護76.2%（前年比+12%）、就労移行16.6%（前年比-50%）、就労継続支援B型81.3%（前年比-4%）。</li> <li>・サービス内容の見直しを行い、重度化や高齢化に対応するため夜間帯及び休日の支援体制を充実させた結果、施設入所、生活介護の平均利用者数・施設稼働率が向上した。</li> <li>・安全対策、危機管理の取組みとして、施設内に安全衛生委員会（安全班、衛生班、交通班、防災班）を組織し、避難訓練（2回/年）、水害等想定避難訓練（1回/年）、厨房害虫駆除（6回/年）寮内害虫駆除（1回/年）、交通安全運動（2回/年）、禁煙日（1回/月）、熱中症対策、感染症対策、職場巡視（設備点検等）を計画的に行い、安全で快適な環境整備に取り組んでいる。新たに地震想定避難訓練を（1回/年）と防犯研修（1回/年）を導入した。</li> <li>・大野城市障害者施設団体連絡協議会に参加し、各団体と協力して研修会の企画や行事等の運営に取り組んだ。</li> <li>・ホームページやブログを活用し、日々の施設のサービス実施状況の情報発信を行っている。施設利用の相談や就労事業の商談等に効果が出ている。</li> <li>・法人広報誌の「コロニーふくおか」を年に4回発行し、施設行事や訓練の様子だけでなく、サービスの質の向上への取り組みとして、研修の実施・参加状況を掲載している。</li> <li>・市内の新たな地域で小学校の福祉教育の授業に、大野城市社会福祉協議会等の関係団体と協力してして参加。施設の利用者が障がい当事者として授業に参加し障がい福祉への理解と啓発に協力した。</li> <li>・地域のボランティアが参加するプログラムや餅つき等の施設行事を通じて、地域の方と交流する機会を設け相互理解を図っている。施設のイベントの時に、地域の申し出により無償で豚汁の提供をして頂き利用者に好評だった。</li> <li>・福祉や教育分野での人材育成のため、多くの実習生を受入れた。実践を学ぶ機会として関係機関及び学生より好評を得ている。（実績：介護等体験実習生14名、保育実習生4名）</li> <li>・利用者満足度調査（匿名のアンケート方式）に基づき、サービスの改善に取り組んでいる。特に設備不良等の要望については迅速に対応している。</li> </ul>

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
③経営（収支）改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村や各関係機関と連携して、地域の福祉ニーズを把握しながら利用者の確保を行っていく。</li> <li>・近隣の特別支援学校、高等学園からの実習・見学に積極的に対応し、利用者の確保に努めていく。</li> <li>・職員による清掃業務の実施や環境整備、備品の管理の徹底、計画的な業務の遂行を行うことで、経費節減に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営費 H30年度：120,652千円 → R1年度：111,981千円（△7.2%）</li> <li>・利用料等収入 H30年度：118,858千円 → R1年度：123,055千円（+3.5%）</li> <li>・福祉事業活動収入予算額119,314千円に対して収入実績額123,055千円（目標比+3%、前年比+3%）</li> <li>・福祉事業活動支出予算額116,799千円に対して支出実績額111,981千円（目標比-0.4%、前年比-7%）</li> <li>・就労支援事業活動収入予算額9,865千円に対して収入実績額11,299千円（目標比+14%、前年比-3%）</li> <li>・就労支援事業活動支出予算額12,380千円に対して支出実績額12,004千円（目標比-0.3%、前年比-15%）</li> <li>・福祉事業活動収入については、利用率の向上と支援区分の見直しにより増加し、支出については経費や業務の見直しにより削減となった。</li> <li>・障がい者の工賃向上のための設備を導入し除草作業や軽作業の作業効率の向上を図った。生産性の高い作業だけでなく、地域で活躍できる作業（ポスティング、学童保育への納品等）や高齢者や重度の方が対応できる作業の導入に積極的に取り組んだ。その結果、様々な障がい特性に対応することが可能となり、安定した施設利用に繋がっている。</li> <li>・特別支援学校の実習について、障がいの個別配慮が必要な方を優先して受入れ、保護者向けの見学会や意見交換会等を行った。</li> <li>（実績：特別支援学校の実習受入 5名、一般校特別学級の受入 1名）</li> <li>・省エネ設備への更新や利用者にも無理のない範囲で節電に取り組み、経費の削減をすることができた。</li> </ul>
④職員確保方策及び健全な財政基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容に応じた専門職員や責任者の配置・確保を行い、また、計画的に研修等を行い資質の向上を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保に向けて、職場体験の実施やスマートフォン等を使った採用活動に取り組んでいる。</li> <li>・法人で教育研修規定を整備し、内部研修だけでなく各種協議会等の実施する研修会へ参加し、専門性とサービスの向上に努めている。（外部研修 28回参加、内部研修 6回実施）</li> <li>・管理者の下に、知識経験のある責任者（係長）、専門職（看護師、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、平成21年厚生労働省告示178号修了者）を配置し、良質なサービスが提供できる体制を整えている。</li> <li>・働き方改革及び育児・介護休業等に関する規定を設け、誰もが働きやすい環境を整えている。</li> <li>・収支計画に基づいて経営を行い、健全な財務体質を維持した。</li> </ul>
⑤施設管理上の個別事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令に準じて空間設備、防災設備、ボイラー等、施設の維持保守を適正に行っていく。</li> <li>・サービス提供時に病状の急変等の事態が生じた場合を想定し、主治医や救急医療措置等協力機関との連携を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築基準法第12条に基づく定期検査（1回/年）、消防設備保守点検 2回/年、自動ドア保守点検3回/年、自家用電気工作物保守点検1回/月、電気設備点検 1回/年、ボイラー点検1回/年、貯水槽点検1回/年、厨房内ダクト清掃1回/年、厨房消毒6回/年、施設内樹木消毒2回/年、定期清掃（洗剤洗浄）1回/月、定期清掃（ワックス使用）1回/3月に実施。</li> <li>・オゾン発生器を計画的に運用し、感染予防と衛生面の向上に努めている。</li> <li>・毎年2回に分けて全職員を対象に普通救命講習会を実施し、緊急時におけるAED（自動体外式除細動器）の取り扱いの訓練を行った。地域の民生委員さんにも参加を呼びかけ緊急時の連携を図っている。</li> <li>・防火管理者（職員）を配置。電気技術者、防火設備等点検者については専門業者に委託し対応している。</li> <li>・防犯マニュアルの整備や受付体制の見直しを行い、防犯体制強化に努めている。</li> </ul>

②点検結果

<p><input type="checkbox"/> A+（提案内容を上回った）</p> <p><input type="checkbox"/> A（提案内容をやや上回った）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B（概ね提案内容どおり）</p> <p><input type="checkbox"/> C（提案内容をやや下回った）</p> <p><input type="checkbox"/> D（提案内容を下回った）</p>	<p>【総合コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容に沿って、概ね適切に管理運営がなされている。</li> <li>・地域の企業や福岡県セルフセンターと協力し、除草作業や簡易作業の受注拡大に努めたほか、新規作業としてアニメグッズの製作作業を導入するなど、安定した作業量の確保に取り組んでいる。</li> <li>・障がい特性に配慮した作業導入（立位作業、単純工程、色彩のある仕事等）を行い、重度障がい者でも作業できる環境を整えている。</li> <li>・小学校の福祉教室に施設利用者が講師として参加し、障がい者目線での地域におけるバリアフリーの状況等について意見交換を行うなど、地域の福祉教育に協力している。</li> <li>・将来における福祉や教育分野の人材育成のため、実習生を積極的に受け入れている。</li> <li>・定例会や利用者満足度調査により利用者の要望を確認し、サービスの改善に取り組んでいる。</li> <li>・引き続き、利用者の確保に努めるとともに、訓練及び支援の質の向上を目指した施設運営が求められる。</li> </ul>
--	--